新宿区議選
4月26日投票 最終・情勢版

ホームページ http://www.shinjuku-shinbun.co.jp
週刊 新宿新聞 THE SHINJUKU SHINBUN
4月22日 2015年（水曜日）（第1949号） 社章
発行所 株式会社新宿区新聞社 編集・発行人 喜田 勇 新宿区西新宿1－1－25 ワコーレ新宿第2ビル
購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊60周年 ☎3369－6195 FAX3369－0759 （昭和32年12月4日第3種郵便物認可）

現職32人に新人（無所属）20人が挑む

今区議選の最大の特徴は投票率が今まで以上に低くなり、政党の“地盤割り選挙”の様相が色濃く出てきたことで自民に“風”が吹いている。２つ目の特徴は、政治にソッポを向く若者とは逆に選挙ではパワー全開の高齢者たちも、今回は“勢い”がない。世代間の新旧交代の波はまず女性から始まり、それは新宿でも例外ではない。３つ目は、議会選挙なのに身を切る議会改革案がないことだ。皆が一様に福祉、子育て、環境を口にする。改革勢力だった“第３極”に勢いがなく「無所属」での立候補が増えたのは政党が若者吸収力を失ったことを意味していないか？（敬称略）

低投票率で自民に“風”

“地盤割り選挙”色濃く

再びトップは下村？

前回トップ当選した下村治生（62歳）が再びトップを走っている。だが前回4千4百7票だったが今回はそれを下回るのは確実とみられる。それは自民新人・渡辺清人に花園神社氏子8町会の地盤を譲ったこと、隣接する自民の池田、桑原地盤にあった秋田支持層を池田、桑原それぞれの支持層に“戻した”ことなどが大きい。「前回は父の弔い戦」と言う位に、池田、桑原地盤の秋田票が下村に流れたわけだ。

実際、前回選挙で桑原羊平は受け継いだ父親の公平票を6百票近く、池田大介は吉住健一票を約8百票、萩原雲二（中村票を受け継ぐ）にいたっては何と9百票近くも失って落選しているのだ。もっともこの失った9百票には、下村以外にも吉住栄郎の票なども含まれている。

選挙は実力がすべて、強いものが勝って何が悪いと“下村ファン”側からみれば憤慨もしよう。だが、党組織の側からみると「一人勝ちはよくない」「他の議席を失うことになる」と“調整の必要”ということになる。

さすが賢明な実力派の下村だ。「今回は明治通りの向こう側、花園神社から向こうは新人の渡辺に譲った」と“襲の深さ”をみせている。

いや下村は次の議長ポスト、その次は都議会議員ポストが待っている。ここは「区議仲間に恨まれることだけはしまい」と自重したとの声も。

▼第2位は再び吉住？

前回、第2位当選を果たしたのは吉住栄郎（41歳）だ。下村より僅か40票少なかった。今回はどうか？

吉住は「生込全区を一手に任せられたので、こんな票になった」とむしろ驚いている。

「沖の3千票」狙う“女の闘い”

今回の区議選では、不出馬となった沖智美の約3千票、那須の千7百票、山田啓史の千8百票、落選した富士の千3百票、永原の千2百票の約9千票の無党派層の票が“漂流”している。その半分が投票に行かず眠ってしまいそうだ。

また前回千票以下の無所属候補14人の合計票は約4千6百。これらは低投票率の中で約3千が“眠って”しまうであろう。

まず沖票の約3千は、同じ女性候補で自民の大門幸恵（45歳）、民主の鈴木宏美（31歳）、民主から無所属になった平間忍（34歳）の3人が大半を吸収しそうだ。残りは沖の相談役として関与した無所属の野頭、榎にも票が回りそうだ。

沖智美は、非自民の第3極みんなの党の公認候補で当時は30歳。若さと美貌で駅頭街宣などで積極的に売り込んだのが功を奏した。

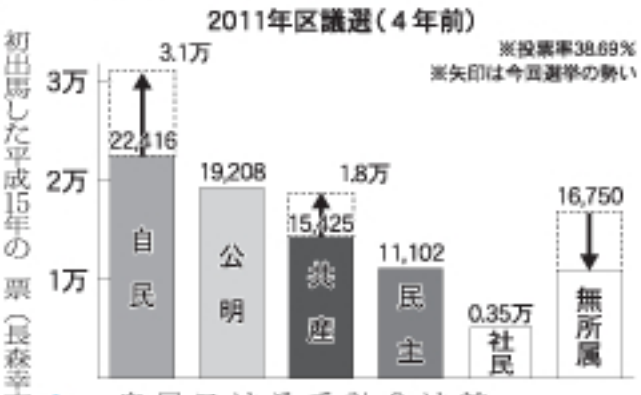
この沖の受け皿の一人大門幸恵は、若さでは負けないと、自民の上げ潮ムードに乗って“沖の受け皿”の最有力にいる。だがポスター貼りはくまなくできたが、駅頭街宣が少ない。売り込みが弱く、沖智美の“受け皿”にはとてもなりきれないでいる。

一方の平間忍は26歳の若さで前々回（平成19年）に出馬、3千6百75票でトップ当選した。前回選は沖に女性票を2千票も奪われ、千6百32票と第31位に甘んじた。今回は民主党を離党したことや（百人町の民主の票田は新人の三雲と争っている）事前ポスターを1枚も貼らず、告示以降の選挙戦にすべてを託した形で、過去の知名度を頼りに選挙戦に臨んでいる。この平間の選挙運動の“不調”に、「沖票を奪還できないどころか前回票を維持するのがせいぜいだ」との見方も。

民主の鈴木宏美は、前回千7百63票で25位当選。無党派層を取り込む“華やかさ”はない。緻密なタイプで、沖票の幾分かは取り込めそうだ。

2011年区議選（4年前）

※投票率38.69%
※矢印は今回選挙の勢い



自・共票は“増票”か？ 3極・無所属に勢いなく

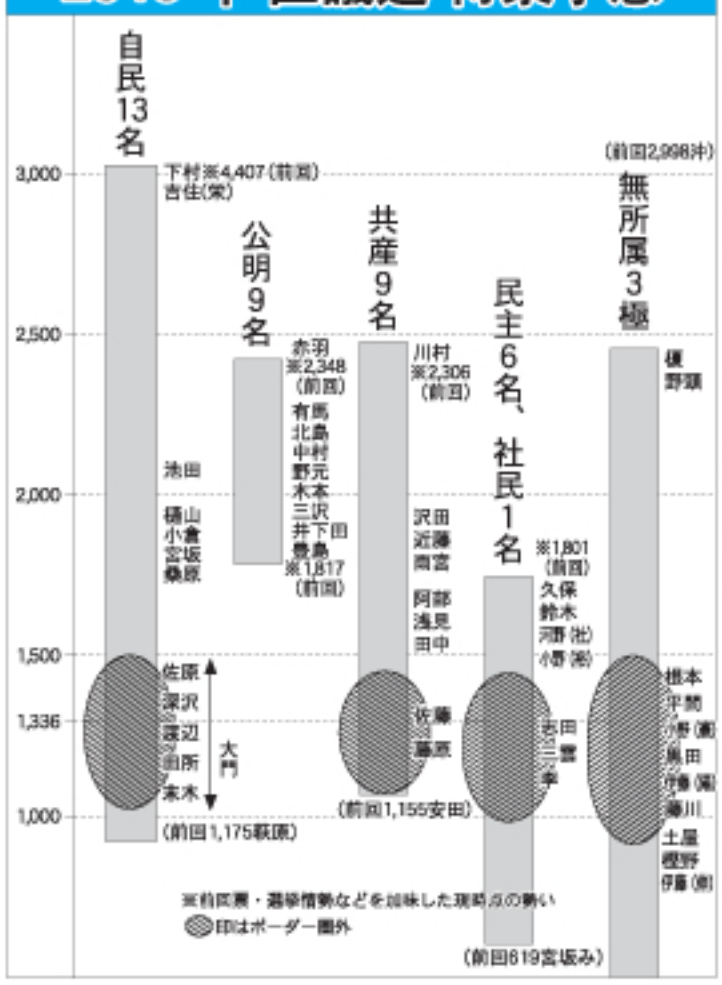
自民は4年前の区議選では10名出馬し9名当選。合計票は2万2千票だった。それから自民はアベノミクスで人気が上昇。昨年末の衆院選比例区（投票率53%）では新宿から4万2千票を獲得した。区議選投票率が衆院選より16ポイント減の37%に下がっても3万1千票は獲得できる計算だ。共産も最近の区長選・国政選挙から1万8千票以上に上乗せが可能だ。一方で3極・無所属は前回3千票を獲得した沖は出馬しない。眠る票も少なくない。

当選を果たした。前回選挙ではそれに野口史章票と中村吉彦票の合計千票を上乗せして4千3百67票とトップの下村の4千4百7票に40票差で迫った。いわば引退した議員の地盤票を上乗せしてきて、膨張してきた票とも言える。

当然「取り過ぎ」は、いけないという党幹部の“仕分け”に合い、新人に地盤を明け渡すこととなった。

早稲田、榎地区は新人の田所龍次郎に、東新宿の中村吉彦地盤は新人の渡辺清人に回す。だから今度の選挙ほど“厳しい選挙”はない！という。再び2位当選しても今度は3千票台だろうという見方が有力。

2015年 区議選 得票予想



“当落線上”に17名

今回の区議選は自民の下村、古住が前回から票を大幅に減らすが、トップをめざす勢いがある。自民は全体票は増えるが現職9名に新人4名を追加したことで、現在、現職の佐原、深沢、新人の渡辺、田所、末木、大門が当落線上で争っている。共産も全体票は積み上げるものの前々回落選の佐藤佳一と藤原が当落線上での争い。そのほか当落線上で争っているのが民主は現職の志田、新人・三雲、李、3極の元気会新人の伊藤剛平と維新新人・藤川、無所属は現職の根本（平間、元職の小野（憲）、新人の黒田。